

「ピオーネ」のS-ABA散布時期を 果粒軟化始期まで早めても、着色が向上します



果粒軟化始期区 着色始期区 無散布区

図1 収穫時の果房の様子

表1 S-ABA液剤の散布時期の違いが「ピオーネ」の着色に及ぼす影響

年次	処理区 ^z	果皮色 (C.C.)
令和6年	果粒軟化始期	6.5
	着色始期	6.1
	無散布	5.1
令和7年	果粒軟化始期	7.5
	着色始期	7.5
	無散布	6.5

^zいずれの年次も、各時期にS-ABA1,000ppm液を果房に満遍なく散布

開発のねらい

植物成長調整剤S-ABA液剤を着色始期に果房へ散布すると、果皮の着色が促進されます。しかし、この時期には果房に袋を掛けているため、袋を外して散布するか、散布のために袋掛けの時期を大幅に遅らせる必要があります。そこで、袋掛けを大幅に遅らせることなく使用できるよう、「ピオーネ」に対して散布時期を果粒軟化始期まで早めて行い、果皮色など果実品質への影響を明らかにしました。

新技術の概要

- 果粒軟化始期にS-ABA液剤を果房へ散布すると、無散布と比べて果皮の着色が促進され、着色始期の散布と比べても同等以上の効果です（図1、表1）。
- 果粒重及び酸含量への影響はほとんどなく、糖度は無散布に比べてやや劣るものの、19度以上です。
- S-ABA液剤の散布を行っても、商品性を低下させるような汚れや果粉の溶脱はみられません。

活用場面

本剤（住友化学株式会社、商品名：アブサップ液剤）を果粒軟化始期から使用できるのは、「ピオーネ」及び「巨峰」に限られ、その他の巨峰系4倍体品種については着色始期～着色開始2週間後です（2026年7月現在）。